

沈まぬ太陽 (2009)

メディア 映画

ジャンル ドラマ

製作国 日本

色彩 Color

時間 202分

初公開日 2009/10/24

公開情報 東宝

映倫 G

【キャッチコピー】

魂が、震える。

【解説】

『白い巨塔』『華麗なる一族』の人気作家・山崎豊子が綿密な取材の基に書き上げた渾身のベストセラー巨編を壮大なスケールで映画化した社会派ヒューマン・ドラマ。激動の昭和30年代から60年代を背景に、巨大組織に翻弄され、海外僻地への左遷や歴史的な航空事故、政界をも巻き込む会社再建といった波瀾の渦中に囮らずも身を置いた主人公が不屈の信念で過酷な状況を克服しようとがく姿を通して、人間の尊厳とは何かを問いかけていく。主演は「硫黄島からの手紙」の渡辺謙。監督は「ホワイトアウト」の若松節朗。

国民航空の労働組合委員長を務める恩地元。職場環境の改善を会社側へ訴えていた彼はやがて、海外赴任を命じられる。それはパキスタンやイラン、ケニアなど、まともな路線就航もない任地を転々とさせられるという、あからさまな懲罰的人事だった。だが、恩地は自らの信念を曲げることなく、長きに渡る海外勤務を全うしていく。一方、同じく組合員として共に闘った恩地の同期、行天四郎。彼はその後、本社での重要なポストと引き換えに会社側へ寝返り、エリートコースを歩みながら恩地と対立していくこととなる。こうして10年のち、孤独と焦燥感に苛まれた海外転勤から、ようやく本社へ復帰を果たした恩地。しかし、会社側に苦境を強いられている組合の同志たちと同じく、恩地も不遇の日々を過ごすことになる。そんな中、航空史上最大のジャンボ機墜落事故が起こる。恩地は遺族係に就き、未曾有の悲劇の数々に遭遇する。また、国民航空の建て直しを図るべく政府の要請で就任した新会長から会長室の室長に抜擢された恩地の前には、さらなる苦難の道のりが続くのだが…。

【クレジット】

監督	若松節朗
製作	井上泰一
企画	小林俊一
製作総指揮	角川歴彦
エグゼクティブプロデューサー	土川勉
プロデューサー	岡田和則 越智貞夫 井口喜一
原作	山崎豊子
脚本	西岡琢也
撮影	長沼六男
美術	小川富美夫
編集	新井孝夫
音響効果	柴崎憲治
『沈まぬ太陽』（新潮社刊）	

音楽	住友紀人
エンディング曲	福原美穂
照明	中須岳士
録音	郡弘道
装飾	小池直美
	三浦伸一
出演	渡辺謙 Ken Watanabe 恩地元
	三浦友和 行天四郎
	松雪泰子 三井美樹
	鈴木京香 恩地りつ子
	石坂浩二 国見正之
	香川照之 八木和夫
	木村多江 鈴木夏子
	清水美沙 小山田修子
	鶴田真由 布施晴美
	柏原崇 恩地克己
	戸田恵梨香 恩地純子
	大杉漣 和光雅継
	西村雅彦 八馬忠次
	柴俊夫 堂本信介
	風間トオル 沢泉徹
	山田辰夫 古溝安男
	菅田俊 Shun Sugata 志方達郎
	神山繁 桧山衛
	草笛光子 恩地将江
	小野武彦 道塚一郎
	矢島健一 青山竹太郎
	品川徹 龍崎一清
	田中健 井之山啓輔
	松下奈緒 樋口恭子
	宇津井健 阪口清一郎
	小林稔侍 竹丸鉄二郎
	加藤剛 利根川泰司

『Cry No More』